

「つきだて地元学」実践経過

2年間の活動には、のべ424人が参加、239の地域のお宝を発見しました。

平成16年度

4. 2. 生涯学習課において事業計画打合せ(16年度努力目標を定める)
 - 4.20. 仙台市へ研修。講師西大立目氏と打合せ
 - 5.14. 生涯学習幹事会。地元学推進会議
 - 5.18. 行政区長、地区館長、各地区から推進委員を推薦
 - 5.26. 生涯学習推進本部・地元学推進合同会議(16年度事業計画決定)
 6. 1. 公民館職員が布川地区で地元学活動を実践
 6. 4. 公民館職員が糠田地区で地元学活動を実践
 - 6.10. 公民館職員が上手渡地区で地元学活動を実践
 - 6.11. 第一回推進委員会
 7. 3. 地元学セミナー(講師/西大立目氏)
 7. 4. 推進委員の実践講座(18名が3班に分かれて実施)
 - 7.27. 推進委員代表者会議
 - 9.19. 布川地区で地元学活動を実践(参加者28名)
 - 9.25. 月館地区で地元学活動を実践(参加者26名)
 - 上手渡地区で地元学活動を実践(参加者14名)
 10. 3. 御代田地区で地元学活動を実践(参加者31名・育成会)
 - 10.16. 下手渡地区で地元学活動を実践(参加者26名)
 - 10.22. 糠田地区で地元学活動を実践(参加者19名)
 11. 3. 「つきだて地元学」発表会。
- 各地区より参加者が成果を発表。資源カードを展示。

平成16年度 ●参加者/のべ218名
●発見資源/144



平成16年11月3日に行われた第1回「つきだて地元学発表会」



下手渡地区館出前講座での地元学発表のようす



御代田地区での活動風景

平成17年度

4. 7. 課内会議。基本方針決定。冊子発刊決定
 - 4.27. 地元学推進委員会(冊子編集委員選任)
 - 5.25. 本部・推進合同会議(17年度事業計画の決定)
 - 6.11. 小手小学校児童・PTA地元学活動を実践(参加者66名)
 - 6.22. 冊子編集委員会基本構想決定(活用方法を協議)
 7. 8. 県北教育事務所訪問(実施事項等指導を仰ぐ)
 - 7.29. 冊子編集委員会(町史編纂室長の講義)
 - 7.30. 下手渡地区で地元学活動を実践(参加者16名)
 - 7.31. 布川地区で地元学活動を実践(参加者54名)
 - 8.27. 上手渡地区で地元学活動を実践(参加者14名)
 - 8.31. 冊子編集委員会
 - 9.10. 月館地区で地元学活動を実践(参加者18名)
 - 9.18. 御代田地区で地元学活動を実践(参加者28名)
 - 9.24. 糠田地区で地元学活動を実践(参加者18名)
 - 9.30. 冊子編集委員会
 - 10.22. 月館小学校6年生親子女神山登山で地元学活動を実践(参加者64名)
 11. 3. 「つきだて地元学」発表会
- (各地区より参加者が成果の発表、資源カード展示)

平成17年度 ●参加者/のべ206名
●発見資源/95

小手小学校の子どもたちが地元学活動を実践



下手渡地区「さあ、これから宝を探そう!」



月館小学校6年生親子女神山登山



地元学活動に参加して

つきだて **地元学** ふるさと発見

月館町はこんなにいいところ——地元学は地域の見方を変えました。

胸の高鳴る思い。

関根 隆夫 (御代田地区)

地元学っていったいどんな学問なんだろうと思いながら参加したのですが、強烈な印象となって目の裏に焼き付きました。

いつも気にも留めずに見逃していたものが、地元学によって初めての知識となって記憶されたり、昔懐かしい物がその時の自分と共に鮮明によみがえって、あまりの感激に鼓動が高鳴ることさえありました。本当に地元学にのめり込む自分のはっきりとわかりました。

これからも多くの人たちと共に地元学を楽しんでいきたいと思っています。

些細なことが、実は素晴らしいこと。

菅野 良一 (月館地区)

「地元学」聞き慣れない言葉に最初は戸惑い、何をどうすれば良いのか不安で一杯でしたが、余り難しく考えないで、見たまま聞いたままを自分の価値観で記録すれば良いのだという説明を受け、人生の大先輩の方々に御指導頂き、活動させて頂きました。車窓等では決して見えない部分に、面白く素晴らしい部分があっただのかと分かった時は、感動すら覚えました。ほんのチョットの些細なことが、実は素晴らしい事なんだと言う事に気づき、大変勉強させて頂きました。諸先輩の方々と活動出来た事が、私の一番の地元学です。ありがとうございました。

地域の魅力をひとつひとつ再確認。

石河 源永 (上手渡地区)

当初、地元学の言葉は理解できましたが、どのようなことをするのか内容がわからないまま参加しました。実践の中で自分の足でゆっくりと歩いて見て、この地域の自然の美しさ、更に今まで気付かなかった所に石塔があったり、又珍しい建造物が目に止まり、なぜこのような場所にこのようなものがあるのか等々と昔のことを追求したくなったりして意義ある地元学で本当によかったと思っています。「古きを訪ねて新しきを知る」という諺のとおりで、自分一人では出来なかったことを公民館事業として企画をしていただき、地域の皆さんと地元にあるもの一つ一つを再確認し、学習することが出来たことに心から感謝しております。

地元学よ、“食”を忘れないで。

本田 洋子

消えつつある伝統食・郷土料理を後世に伝えておかなければいけないと思っていた矢先に「つきだて地元学」の話がありました。

“緑豊か、空蒼く、水清く、人情味がある”月館町をもっと好きになりたい!の「つきだて地元学」に『食』がすっぱり抜けているような気がしました。

人は“食”からだべ!”と思ったのは「よーこばっば」だけなのかしら?原稿依頼あった時、迷わず「ハイ。書きます」と受けました。

地域の財産を、次の世代へ。

中村 利幸

「五町合併、伊達市誕生の変革の時に『月館町』を見直していこう」と、地域一体となって取り組んだ「つきだて地元学」に携わることができたことは、私にとって大きな意義ある経験となりました。小さい時から、自分たちが住む地域の歴史や特色を学習することは、成人しても地域を誇りに思い、地域を愛する心を育てます。そして、その財産を残してあげるこそが大人の役目ではないかとも思っています。世代を超えて本誌が引き継がれること願っています。

冊子ができたら、また歩こう。

加藤 喜美 (布川地区)

二年前何げなく引受けた地元学委員。それが大変なお仕事。七月の暑い日、初めて館の腰から糠田方面へと歩く事になりました。

“何も感じるものなんかないな!暑いばかりで”と心の中で思ったものでした。その後、友達と歩いたり二回三回と回を重ねて行くうち、自分でも驚く程、回りに興味を持ち自分の目の成長(?)にチョッピリ満足。これで地元学もおしまいかな、ちょっと淋しい気はしますが自然との出会いに感動。本が出来上がったらまた歩いてみたいです。ありがとうございました。

立花公に思いをはせて。

高木 弘子 (下手渡地区)

生まれ故郷が三池藩立花公のゆかりの地であることを再確認しました。参勤交代の通過地点が御城下であったことは誇りとするべきです。二百年前の殿様行列がこの地を「下に、下に」とお通りになったなど信じられません。立花公は天保の飢饉を九州じゃが芋で救ったという人情話を聞き、数少ない貴重なお話だと思いました。他の地域もゆっくり散策し月館の歴史を追求できれば地元が楽しくなりもっともっと好きになるのではないのでしょうか。

地域の資源を記録し、記憶し、伝える。

金澤 顕治

いくつかの街道が交わる月館町には、主要な分岐点に道標が残っています。いくつもの時代を見つめてきた道標は、今の時代をどのように見ているのでしょうか。

先人の多くの知恵や技術は、時代の中に置き去りにされつつあります。そんな中、「地元学」と出会った月館町は幸運だったと言えるでしょう。いくつもの資源が皆さんの目で見出され、記録されました。そして更に、記憶し、伝え続けていきたいものです。

里山に宝あり。

阿部 明義

知ってますか!この世で、一番ぜいたくな事はなにかを。買ったくても買うことのできない、それは『静けさ』なんだそうです。我が町はどうでしょう…。今、そんな「静けさ」という事が貴重になってきているのです。完全と言えないまでも、我が町にはまだ静けさが残っているような気がします。そうなんです。町の総面積のうち、自然(山林原野)が七割を占めているからです。その山が里山です。里山は、人が出入りしている生活にかかわっている所です。そこには、先人の足跡が何らかのかたちで残っております。むかし話(たとえ話)、祠、炭がま、田んぼの跡とか。また更に探究したところ古代人の住居の形跡が…等と何が発見できるか分からない、まさに里山は宝の山なのです。



地元学・参加者名

6地区での活動は小さな子どもたちからお年寄りまでを巻き込んで、「伝える」「集う」場になりました。



御代田地区

三浦 哲夫	寺島 佳祐
阿部 明義	岸波 優子
斎藤 佳子	岸波 牧穂
斎藤 征男	関根 章
穴戸 隆子	清野 幹男
寺島 武	三浦 利勝
穴戸 柚希	三浦 朋也
高野 さち子	清野 光咲
穴戸 冬希	前野 真理亜
熊坂 正明	前野 理香子
熊坂 大佑	寺島 敏美
高野 はるか	
堀江 恵子	
森 勝幸	
加藤 実	
関根 隆夫	
穴戸 俊則	
佐藤 勝廣	
森 広志	
森 祐介	
関根 尚志	
森 典子	
森 彩音	
寺島 友花	
菅野 英樹	
菅野 康平	
高木 康行	
関根 正廣	
菅野 将志	
森 貞男	
高野 政人	
	憲一



布川地区

杉本 誠也	斎藤 光雄
斎藤 道雄	斎藤 一男
浦住 盛夫	古川 照雄
斎藤 誠	渡部 玲子
斎藤 好生	斎藤 克行
寺島 ヨシ子	千葉 シツ子
浦住 昭紘	斎藤 善次郎
本田 セル	菅野 武子
斎藤 ツヤ	市川 絹子
斎藤 尚一	斎藤 テル子
渡辺 のり子	斎藤 コウ
千葉 ウラ	斎藤 リノ
斎藤 則男	斎藤 浩之
黒木 真由美	斎藤 和寿
斎藤 トミ子	斎藤 英子
斎藤 フサ子	斎藤 登美子
斎藤 征子	斎藤 タツ
斎藤 鉄夫	斎藤 好子
森 三代子	斎藤 道代
斎藤 幸子	本田 俊弘
佐藤 彦義	佐藤 哲夫
斎藤 清	佐藤 テツ子
松本 恭磨	斎藤 昭子
斎藤 雅彦	斎藤 幸弘
斎藤 幸夫	斎藤 亘
森 秀明	千葉 亜佳里
斎藤 智恵子	佐藤 純花
森 キヨ	黒木 悠介
加藤 忠治	斎藤 紀恵子
斎藤 トキ	
加藤 喜美	
千葉 倍治	

月舘地区

茂泉 信夫
遠藤 富子
菅野 良一
佐藤 信吾
二階堂 トキ
佐藤 仁子
佐藤 満明
松浦 武夫
斎藤 昭二
斎藤 福代
斎藤 マサ
菅野 泰吉
伊東 初江
斎藤 光代
松浦 幸子
渡辺 和子
菅野 ハツイ
浦住 友好
斎藤 文子
芳賀 カツ
茂泉 栄子
加藤 チカ
高橋 久一
高橋 明良
斎藤 勝子
佐藤 セツ子
菅野 英二
高橋 利雄
菅野 幸一
菅野 健一
菅野 愛子
若林 万作



御代田地区参加の皆さん



布川地区参加の皆さん



月舘地区参加の皆さん



糠田地区

矢館 宗三	佐々竹 敦子	矢館 聖也
佐藤 力	佐藤 一雄	長谷部 裕也
羽賀 巧	桑島 久嘉	高橋 れいな
羽賀 照雄	桑島 道代	佐藤 春香
高橋 一雄	羽賀 陽子	松下 真希
斎藤 甚	渡辺 豊子	斎藤 司
斎藤 清	森 和之	羽賀 実里
千葉紀左門	千葉 哲弥	高橋 愛里
斎藤 昭一	佐藤 浩子	斎藤 雄太
斎藤 雄一	桑島 弘美	森 千尋
斎藤 哲雄	斎藤 登志博	千葉由佳理
千葉 庸雄	斎藤 恵美子	伊藤 未菜美
斎藤 勇治	高橋 きよ子	斎藤 佐和子
伊東 恵子	斎藤 誠一	長谷部 心
斎藤 市太郎	斎藤 悦子	千葉 早貴
関口 衣子	斎藤 佳峰	斎藤 健志
太田 康一	斎藤 葉子	小 椋 健太
三浦 一樹	小 椋 竹友	斎藤 隆則
菅野 博昭	小 椋 美津子	斎藤 恵太
菅野 妃李	斎藤 茂	佐藤 琴乃
三浦 正樹	斎藤 純江	渡辺 菜月
菅野 慧	斎藤 喜代志	高橋 聖奈
菅野 珠李	斎藤 律子	斎藤 弘樹
佐久間 文子	長谷部 忠義	千葉 翔太
大野 静江	長谷部 謙二	斎藤 浩幸
伊藤 カツヨ	佐藤 正信	佐藤 有沙
中村 利幸	斎藤 美智子	桑島 淳潤
庄司 久子	佐藤 みゆき	
中川 陽子	二階堂 敏彦	
花輪 忠康	千葉 幸三	
伏見 珠美	桑島 健	
南館 君代	斎藤 はづき	

上手渡地区

太田 正孝
石河 源永
千葉 良一郎
菅野 倉太
渡辺 義明
佐藤 一郎
菅野 良一
斎藤 正義
佐藤 文一
佐藤 衛
菅野 正巳
斎藤 トキ子
千葉 勝子
渡辺 康男
佐藤 文次郎
斎藤 要司
斎藤 司
近野 清喜
齋藤 実



下手渡地区

馬場 一祐
渡辺 イチ
渡辺 トキ
馬場 誠
渡辺 博
馬場 悦子
佐藤 ミチ子
長根 陸郎
佐藤 忠三
高木 弘子
高木 シツ
佐藤 恵美子
高橋 善
菅野 恒雄
佐藤 ツタエ
佐藤 孝子
岡崎 利子
太田 セイ子
佐藤 妙子
馬場 和子
佐藤 ミツ
高木 フサ子
佐藤 きよい
千葉 恵美
後藤 ヤイ
佐藤 衡太郎
馬場 絢美
佐藤 千野
宮内 一路
高木 愛美
千葉 きよみ

公民館

斎藤 昭二
斎藤 真弓
渡辺 好宏
斎藤 勇一
斎藤 美津子
高橋 英樹
森 貴哉
大場 真一
佐藤 仁子
金澤 顕治
西大立 目祥子
古川 秀明
加藤 智香



下手渡地区参加の皆さん



糠田地区参加の皆さん



上手渡地区参加の皆さん



「つきだて地元学」推進委員・顧問名簿

委員長	斎藤 勇
副委員長	根 隆夫
委員	菅野 良一
〃	加藤 喜美
〃	石河 源永
〃	高木 弘子
〃	阿部 明義
〃	本田 洋子
〃	中村 利幸
〃	金澤 顕治
〃	遠藤 富子
〃	茂泉 信夫
〃	松浦 武夫
〃	斎藤 智恵子
〃	杉本 誠也
〃	斎藤 鉄夫
〃	堀江 恵子
〃	斎藤 征男
〃	菅野 貞男
〃	伊東 恵子
〃	斎藤 市太郎
〃	千葉 吉春
〃	斎藤 文一郎
〃	千葉 良一郎
〃	太田 正孝
〃	渡辺 博
〃	馬場 誠
〃	長根 陸郎

存在感の共有。

斎藤 勇治

人は何時の時代に何処に生まれるかは自分で決める事は出来ない。月館に生まれ育ち、長く生活をしてきた。月館の現在があるのは…と考える時「地元学」が生まれる。振り返ったり、戻って見直したり、立ち停ったりすると、そこに新しい発見があり人生を楽しむ事が出来る。

皆んなで歩いてみると一人一人の発見があり、その集合体が月館の新しい存在感である。



推進委員の皆さん

月館町指定文化財一覧

大切に守り、次の時代へと手渡したい月館町の文化財。

小志貴神社牡丹獅子舞

(昭和40年10月1日指定)
・所在地／上手渡字玉久保

名勝・女神山

(昭和43年11月19日指定)
・所在地／上手渡字女神山

布川熊野神社獅子舞

(昭和55年12月4日指定)
・所在地／布川字村石

布川下神山磨崖仏

(昭和42年8月20日指定)
・所在地／布川字下神山

堂ノ脇乳銀杏 (本誌表紙写真)

(昭和44年7月31日指定)
・所在地／糠田字堂ノ脇

中古屋の如意輪観世音像

(平成10年8月1日指定)
・所在地／布川字中古屋

岳林寺十六羅漢像

(昭和42年8月20日指定)
・所在地／糠田字杉内

下手渡藩天平陣屋跡

(昭和44年7月31日指定)
・所在地／下手渡字天平

岳林寺の木食作の地藏尊像

(平成10年8月1日指定)
・所在地／糠田字杉内

元苗内薬師如来像

(昭和43年4月23日指定)
・所在地／糠田字元苗内

耕雲寺侍墓地

(昭和44年7月31日指定)
・所在地／下手渡字上代

恵比寿大黒天二尊像

(平成15年11月1日指定)
・所在地／上手渡字摺臼田

薬師寺の行屋

(昭和43年4月23日指定)
・所在地／糠田字元苗内

筑前国岩屋籠城戦死者大位牌

(昭和44年7月31日指定)
・所在地／下手渡字上代

恵比寿大黒天二尊像

(平成15年11月1日指定)
・所在地／上手渡字屋敷

つきだて地元学冊子刊行にあたって

月館には、自然、歴史、文化、風習、街並みなど、身の回りにたくさんすばらしいものがあります。普段の生活を振り返ると、いつもは車で通勤している道も、自分の足で歩いてみると、いままで気づかなかった道端の可憐な草花や歴史を積み重ねてきた街並みが鮮やかに目に飛び込んできます。

そこに住んでいる人にとって、あまりにも当たり前になりすぎて、なかなかその本当のすばらしさに気づかない宝物をみんなで掘り起していこうというのが、この地元学です。

2年間にわたる実践活動で、数多くの宝物と出会うことができました。参加者からは、「地域の良さを再確認することが出来た。」「外部からの賛辞を聞いて地域の魅力に気づいた。」との声を聞くことができました。

この度、この貴重な資料を皆様にお伝えいたしたく、地元学の成果をまとめた冊子を発刊する運びとなりました。このようにして集められたすばらしい宝物は、後々まで残して行きたいと思いますし、何よりも子どもたちに伝えていきたいものです。

伊達市月館町のすばらしさを知り、心のよりどころである地域を愛し、そして誇りを持ち、地域づくりに活用していただきたいと思います。

つきだて地元学冊子発刊にあたりまして、多大なるご協力をいただきました関係各位に対しまして心から御礼申し上げます。

平成18年3月

伊達市月館中央公民館長 斎藤 昭二

つきだて地元学 ふるさと発見 ―私たちが見つけた月館の魅力―

平成18年3月31日発行

発行／伊達市月館中央公民館

編集／つきだて地元学推進委員会冊子刊行企画・編集委員会

青空編集室 西大立目 祥子

〒960-0902 伊達市月館町月館字ウルシ坊19-1

TEL024-572-2133 FAX024-573-3471

E-mail t-hall@city.date.fukushima.jp

印刷／陽光社印刷株式会社